

泉のほとり

●三位一体後第一七五日

今月の詩篇「第九五篇」

深い地の底も御手の内にあり

山々の頂きも主のもの。



神の助けを受ける者

自分が死ぬとどうなるのかを、誰もが考えます。生前よいことをした人は天国へ行き、そうでない人は地獄に行くと考える人もいます。聖書では、神さまに受け入れられた人は、神さまがおられるところ、つまり天国へ行き、そうでない人は、神さまのおられない地獄へ行くとあります。

しかしながら、そういう考えはエジプトから来たもので、聖書本来のものではないと言われています。そういうものをを用いて主イエスは御心を示されたのです。

ある金持ちが贅沢な暮らしをしている家の前に、ラザロという貧しい男がいました。金持ちの家の食卓から落ちるパン屑を食べて生きていたのです。朝になると家族がそこへ運んで来て、夕方に家に連れ帰ったのでしよう。

そのラザロが死んで、天国へ行き、金持ちも死んで、地獄へ行きました。不思議なことは、ラザロが生前何かよいことをしたという記録も、金持ちが悪いことをしたという記録もないことです。むしろ金持ちはラザロを追い払わないで食べ物を与えていたのですから、彼を親切に扱ったのです。それなのに、死後の運命が全く逆なのです。

その唯一の理由は、ラザロが生前悪いものを受け、金持ちはよいものを受けたことです。そうだとすると、金持ちはラザロに、もっとよいものをあげればよかったのでしょうか。パン屑ではなくパンを、あるいは肉や野菜もあげればよかったのでしょうか。

うか。

ラザロは悪いものを受けながら、それ以上を望みませんでした。彼の願いは、パン屑でお腹を満たすことだったのです。パン屑ではなくパンを、とか、肉や野菜を、とは思わなかったのです。理由は、彼がラザロだったからです。

主イエスの譬えの中で、登場人物に名前があるのは、この話だけです。主はこの人を、ラザロと名付けました。ラザロとはヘブライ語で「レアザル」です。「神の助けを受けて生きる者」という意味です。この人は、自分が神の助けを受けて生きていくことを、知っていたのです。家の人が毎朝運んで来てくれることも、金持ちがパン屑をくれることも、ラザロにとっては、神さまの助けだったのです。

金持ちは、自分の兄弟を悔い改めさせるために、ラザロを遣わして忠告して欲しいと願いますが、断られます。聖書に聞けば十分だからです。聖書こそ、わたしたちがどれほど神さまの助けを受けて生きていくかを語り続けているからです。

わたしたちはいつの間にか、自分がラザロであることを、つまり神さまの助けを受けて生きていくことを、忘れます。そういうわたしたちに主は、あなたもラザロなのだ、語っておられるのです。

(ルカ一六・一九〜三二)

祈り

○ わたし共を愛してくださり、わたし共の愛をいつも求めてくださる主イエス・キリストの父なる御神。あなたがわたし共にお与えくださり、しかし、まだ顔を合わせて見たことのない御子イエスを、謙きに満ちた喜びをもって愛することができ、今、その主イエス・キリストの愛を深く心に留め、また、わたし共の愛を確認する主の食卓にあずかる朝を迎えています。

あなたが与えてくださった人生の旅路、必ずしも平らかならず、ときに途方に暮れ、ときにつぶやき、ときに深い疲れを覚え、自分自身の信仰にすら疑いを抱き、立ち止まってしまうわたし共であります。そのわたし共をいつも心に留めてくださっているあなたが、七日目ごとに刻みを入れ、主の食卓にあずかる栄光を与えてくださいます。まさにここに、あなたの光にわたしたちの光を見る体験を新しくすることを許されます。主の光をほつきりと見ることができますように。その光がわたし共を生かし、わたし共の中に根を下ろし、わたし共が光の子とされていくことに改めて気づくことができますように。

嘆きや悲しみが喜びに変えられ、

つぶやきが感謝に変えられますように。わたし共は正当な理由があると思つて自分の罪を義いせず、自分こそ正しいと言ひ張るとき、何が起こつていくかわからなくなります。そのようにしてあなたの御名をさえ汚していることを、恐れをもって思い起こすことができますように。人に蹟きを与えて、それに気づかず、「蹟かされてる」と言つて腹を立て、人を愛する心を失つていながら「愛されていない」と言ひ、自分の不平が正しいように思つてしまいます。人をもてなすことを忘れ、もてなされていない自分の貧しさだけを嘆いてしまいます。主にこんなに愛されているのに、こんなにも深く生かされていくのに、その命の根源から切り離されていくと思ひ込んでいくような嘆きを、愚かさを繰り返すのであります。

御言葉をお聞かせください。御言葉があなたのほうから罪を押し開いて入つてくるとき、わたし共の愚かな者が知恵ある者へと変えられてしまうことを今こそ体験できますように。へりくだつて御言葉を聞き、御霊によつて引き上げられて讃美を歌う喜びの中で平安を知ることができますように。

主の御手によつて立たされ、主と共に歩み出すこの月の歩みであり、このひとまわりの旅路であることができますように。ここにあるすべての者の一歩、歩の歩みを、御霊と御言葉をもちつて確かなものとしてください。

主イエス・キリストの御名によつて、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○ いよいよ明日が第七〇回のバザー当日です。礼拝後、着替えを済ませて、ホールにお集まりください。お祈りをしてから、一斉に最後のバザー準備に取りかかります。

○ 午後一時にお昼を一緒にいただきます。アサウンスをしますので、奉仕者は奉仕の手を休めて、ホールにお集まりください。

○ 今週はバザーの後片づけがありますので、事務所は、〇日に全員出勤し、一日に休みます。また幼稚園も、一〇・一一日は休園です。聖書の会も一日はお休みです。

○ 次週一五(日)一回礼拝のあと、バザー感謝会と愛餐会、午後には小バザーを開きます。皆さんご参加ください。愛餐会の参加者数を確認するために、特別に四百円のチケットを販売しています。今日中にお求めください。

○ バザー券の精算をできれば今日中にお願ひします。

○ 紫陽音楽伝道師は、本日、千葉キリスト教会の礼拝、五井教会のコンサート、一四日(上)、高崎福音キリスト教会のコンサートで奉仕をします。どうぞお祈りください。

明日のスケジュール

午前六時頃 会場係作業開始

午前六時半 会場係ほか朝食

午前八時 園庭で礼拝。

奉仕者は全員、この時間までには来て
ください。一緒に礼拝をして、その後、
一斉に最後の準備にかかります。

午前九時半 開場・開店。

お客さんが会場に入つて来られます。

午前九時五〇分 奉仕者はこれ以後、買
い物ができません。

午後二時一〇分 園庭で抽選会。

一等 自転車

二等 マリオットホテル宿泊券

三等 デイズニリーゾート

ベアアホ

四等 パン焼き器

五等 衣類乾燥器、ご期待ください。

午後二時半 バザー終了。

片づけ開始。

できるだけ多くの人で協力しながら手
早く片づけをします。どうぞご協力くだ
さい。

午後四時半 片づけ終了。解散。

次週はバザー感謝会

次週二五日まで、〇時からの一回礼拝です。
次週は礼拝後、バザー感謝会と愛餐会、小バ
ザーがあります。愛餐会のチケットを四百円
で販売中です。事務所でお求めください。次
週のスケジュールは左記の通りです。

一〇時 主口礼拝

礼拝後 小バザー店作り

愛餐会準備

一二時 ホールでバザー感謝会

一二時二〇分 愛餐会

一二時〜一四時 小バザー

一四時 小バザー片付け

一四時〜五分 役員会

聖書の会

10月11日(水)

○朝の聖書の会

○聖書の夕べ

お休みです。

10月18日から再開します。

ミニコンサート

11月9日(木)12時30分開演

ピアノ演奏 鷺谷 幸

次週礼拝

●一回礼拝(午前10時)

讃美歌 II 59番 讃2-1361番

説教 「感謝しましょう」

聖書 ルカ17章1-19節

説教者 古村利雄 牧師





1 回礼拝 (午前10時)

讚美歌 1159番

讃21-361番

説教 「なすべきことをしただけです」

聖書 ルカ17章5～10節 (新約P142)

司式者 山名隆史 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教 黄允湜 高牧師

前奏曲「マーチ」J.S.バッハ

○ 讚美歌第二編 59番

1. すべてのもの統らすかみよ

み名をたたえ ほめうたささぐ

みめぐみゆたけく 正義みつる

かみこそわれらの盾 また蔽

2. よろこびもてささげまつる

うたはたかく みくらにとどき

ものみなどよみて こたえうたわん

「かみにぞみさかえ ときわにあれ」と

3. わが主イエスにしたがいゆき

こころひくく自あてはたかく

この世にわが主の み旨のなる

その日をのぞみて われらいそしまん

○ バリトンによる讚美

「のぼろう のぼろう」 黒人霊歌

のぼろう のぼろう ヤロブのはしごを

十字架の兵士よ さあ のぼろう

進もう進もう きよくなる道を

十字架の兵士よ さあ 進もう

のぼろう のぼろう あめなるみくにへ

十字架の兵士よ さあ のぼろう

はげもう はげもう 主イエスのみわざを

十字架の兵士よ さあ はげもう

○ 聖歌隊による讚美

「主は共にあり」 C.S.マドゥル

ゆめを追い求め 歩みゆくわれら

たかきほまれ つよき方のぞみて傷つき

行く道 うしなう

世のほまれではなく 方ではなく

主は 愛と平和を与え われら導きたもう

み神は愛もて 常に共にあり

行く道示して 方あたえたもう

わが主は愛もて 常に共にあり

行く道 われらと 常に共にあり

○ 讚美歌21-361番

1. この世はみな 神の世界

あめつちすべてが 歌い交わす

岩も木々も 空も海も

み神のみわざを ほめたたえる

2. この世はみな 神の世界

鳥の音 花の香 主をたたえる

朝日 夕日 空に映えて

み神のみわざを 語り告げる

3. この世はみな 神の世界

悪魔の方が 世に満ちても

わが心に 迷いはなし

主こそがこの世を治められる

聖餐曲「み声聞くとしてみ前に集いぬ」 S.カーク=エラート

後奏曲「リクニー (連奏)」 J.797

※ 礼拝には、聖書、讚美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。